

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ：<http://www.library.city.kawasaki.jp/>

川崎市立図書館講演会

光の魔法が未来をつくる

— 科学ってすごい。最先端技術の世界 —

お話：藤嶋 昭氏（東京大学名誉教授・
神奈川科学技術アカデミー（KAST）理事長）

平成 16 年 3 月 6 日（土）午後 2 時～4 時

“光触媒（ひかりしょくばい）”って知っていますか？

なんだか難しいことばですが、実はこの“光触媒”、私たちの日常生活の中で、いろいろなことに役立てられているんです。

お風呂の中でも曇らない鏡や、黄ばみやにおいのつかない抗菌タイルなど、どこかで目にしたり耳にしたことのあるこれら製品は、“光触媒”を利用して開発されたのだそうです。

この“光触媒”を発見したのが、高津区にある神奈川科学技術アカデミーの理事長、藤嶋昭さんです。

“光触媒”研究の第一人者であり、日本を代表する科学者である藤嶋昭さんが、皆さんを最先端技術の科学の世界へと案内してくれます。

科学の世界は私たちの身の回りに無限に広がっています。藤嶋さんをナビゲーターに、そんな科学の世界をのぞいてみませんか。きっと科学が好きになります。

○場 所 川崎市生涯学習プラザ 大会議室
（JR南武線・東急東横線 武蔵小杉駅
下車徒歩12分）

○対 象 小学校高学年以上の方ならどなたでも
小中学生歓迎！
小学校高学年以上の方ならだれでも理解できるようにわかりやすくお話していただく予定です。

○定 員 144名

○費 用 無 料

○申込み 平成16年2月17日（火）10時から
川崎市立図書館全館と神奈川県立川崎
図書館で整理券をくばります。
先着順。1人1枚まで。

○主 催 川崎市教育委員会（川崎市立図書館）

藤嶋昭さんプロフィール

- 1942年 東京都世田谷区生まれ
- 1967年 東京大学大学院時代に光触媒を発見
- 神奈川大学工学部講師、東京大学工学部講師、助教授、教授を経て、現在は東京大学名誉教授。
- 2003年 神奈川科学技術アカデミー理事長に就任。

長年にわたり、光電気化学の研究で活躍され、その功績から数々の荣誉ある賞を受賞されています。2003年 紫綬褒章受章。2004年 日本国際賞受賞。

好評だった平岩弓枝講演会

～平成15年10月22日 多摩市民館大ホールにて～

去る10月22日、多摩区文化協会と多摩図書館の共催による読書普及文化講演会が、「御宿かわせみ」や「はやぶさ新八」シリーズでおなじみの作家・平岩弓枝さんをお招きして開かれました。当日は小雨の降るあいにくの天候でしたが、会場いっぱいの参加者が集まり熱心に耳を傾けていました。

講演では、恩師である戸川幸夫氏・長谷川伸氏のお話を交えながら、作家になった頃や時代小説を書き始めた頃のお話を伺うことができました。

また、江戸時代に実際にあったという、あるあだ討ち話を通じて、人情味あふれる江戸の人々から感じられる「日本のこころ」について語っていただきました。

平岩弓枝さんのお話に会場全体が惹きつけられ、あっという間の一時間半でした。参加された方からも「大好きな作家を身近に感じることができました」などの感想をいただきました。



また、講演会後も、お話にあった小説『湖水祭』を「ぜひ読んでみたい」という方々が図書館に来館されるなどの反響がありました。

図書館では、今後も講演会だけでなく様々な機会を通して、また資料を整備して、より身近な生涯学習施設としての役割を果たしていきたいと考えております。

ご利用をお待ちしております。

川崎市民作家クラブ活動中！

— 活字文化を川崎から —

去る12月7日（日）川崎市在住のアマチュア作家14名からなる、「川崎市民作家クラブ」（代表・須藤義之）のメンバーの方々が中原図書館を訪れ、それぞれの著書を寄贈してくださいました。

川崎市民作家クラブは、「活字離れが進む今、地元川崎から活字文化を発信し、心豊かな社会をつくっていききたい」という思いから、生まれた川崎市在住の作家の集まりで、平成15年の夏から活動しています。

自費出版などで出された本は、自叙伝、小説、絵本、エッセーなど、ジャンルもさまざまです。当日は、それぞれの著書にこめられた想いや、創作活動にまつわる話などもうかがうことができました。

「みんないわゆるプロの作家ではないんです。それぞれに職業があったり、ボランティア

活動があったり…。私たちが本を書くのは、けっして商業主義からではなく、本を通じていろいろなメッセージを送りたいからなんです。これらの本は、いわば、私たちの『真実の声』です。ぜひいろんな方に読んでもらいたいですね。」と、代表をつとめる須藤さんは熱く語っていただきました。



— 川崎市民作家クラブの皆さんと中原図書館長 —

クローズ アップ

子どもと本の素敵な出会いをめざして

図書ボランティア「ブックママ」－ 中原区・上丸子小学校 －

11月1日、土曜日。上丸子小学校の「ゆめの森」と呼ばれる図書室には、おはなしの舞台を前にして、瞳を輝かせている子どもたちの姿がありました。

この日は、上丸子小学校の文化祭。年に1度の大きな行事とあって、ふだんはゆったりとくつろいだ雰囲気「ゆめの森」も、暗幕が張られ、大きな布絵本の舞台や影絵のセットが組まれて、わくわくするような「ゆめもりシアター」に大変身です。

「ゆめもりシアター」を創り上げているのは、図書ボランティア「ブックママ」の皆さん。みんなでアイデアを出しあって、夏休み前から準備をしたという4つの演目は、どれも趣向をこらしたもののばかり。子どもたちはおはなしの中にぐいぐい引き込まれ、思わず身をのりだすほどでした。

ここ数年、地域の教育力を生かそうと、様々な分野において、「教育ボランティア」を導入する学校が増えてきました。上丸子小学校でも、平成11年に、学校からの保護者への呼びかけをきっかけに、図書ボランティア「ブックママ」が誕生しました。本の読み聞かせや、図書室の運営に携わるブックママは、子どもたちの読書環境を整え、子どもと本とを結びつける大切な役割を担っているとのこと。

学校図書相談員が核となり、ゼロからスタートしたブックママも、メンバーを増やし、活動内容を充実させながら、子どもたちの中にしっかりと根をおろしてきました。文化祭でのおはなし会は、子どもたちが楽しみにしている活動の一つ。その他にも、1年を通じて、本の読み聞かせ、貸出・返却、本の整理や修理、



～昔話『あたまたに柿の木』より～
手作りの小道具で味わい深く。

季節にあわせた図書室の飾りつけ、読書相談など、様々な活動をしています。

子どもたちとのふれあいや、学校との信頼関係がブックママの活力の源だとか。

「道を歩いていても、子どもが声をかけてくれることがあるんですよ。『あっ、ブックママさんだ。』、って。だんだんと定着してきてるんですね。授業内容にあわせた本探しなどもやっています。例えば、先生からのリクエストで、平和に関する本を探したりだとか。」

年度始めには、幹事役を中心に、年間の活動計画表が作られます。しっかりと役割分担をして、まとまりと自主性のあるブックママですが、堅苦しさはなく、和気あいあいと楽しみながら活動している様子。ブックママの活動が軌道にのるにつれて、図書室も活気づき、子どもたちの読書量も着実に増えてきているようです。



～『いちばん大切なもの』より～
巻き物状の背景は、全長15mにもおよぶ力作。



～口上『がまの油売り』より～
リズム感あふれる言葉の面白さに圧倒される子どもたち。

かわさき歴史めぐり (2)

徳川氏の関東入国と川崎市域 - 2 -

法政大学名誉教授

村上 直

代官陣屋とは、代官が民政の執務を行う役所と官舎、それに属僚などの役宅を含めた諸施設の総称ですが、幕府の出先機関であり、地域支配の拠点であったといっていよいでしょう。また、御殿とは、将軍や大御所（おおごしよ 隠退した将軍のこと）が、公の旅行や鷹狩りなどで宿泊する施設です。この二つの施設が、徳川氏の関東入国後に小杉村に存在したということは、江戸の近郊農村としての川崎市域が、多摩川の南岸沿いに位置する重要な地域であったことを示していたといえるでしょう。

また、中原街道は、別に江戸時代には「相州道」「江戸道」、平塚の酢が江戸へ運ばれたので「御酢街道」とも呼ばれていますが、すでに戦国時代から領国内の主要な交通路であったといわれます。小杉陣屋と小杉御殿は、多摩川の渡河地点、つまり丸子の渡しの近くにあり、周辺には上丸子村の山王社（日枝神社）や大楽院、小杉村の西明寺、上小田中村の泉沢寺、さらに宮内村の常楽寺や春日神社などの著名な古寺社が分布しています。したがって、小杉陣屋や小杉御殿は、戦国時代から寺社を中心とする地域文化が展開していた地点に設定されたといえることができます。恐らく陣屋や御殿が正式に設定される以前には、徳川家康や秀忠は西明寺などを宿泊の場所として利用していたのではないかと思います。

さて、関東入国後の領国経営において、検地や年貢額、交通路の設定や宿駅の設置、河川の改修、人工用水の開削など地域開発を促進させたのは、家康の側近である年寄衆（のちの老中）本多正信を中心とした関東総奉行の青山忠成、内藤清成、それに代官頭伊奈忠次、大久保長安、彦坂元正、長谷川長綱の地方巧者のグループであったといえます。特に代官頭じかたの四名は、独自の仕法によって多くの代官・手代てがわりらの地方巧者

をその傘下において、地域の開発や開拓に実績をあげていきました。ここでいう地方巧者とは江戸時代に地方（農村）支配が巧みであった役人のことです。

川崎市域では、関東入国の翌年、天正19年（1591）10月に行なわれた岡上村（麻生区）、同20年8月の堀之内村（川崎区）、山王領（稲毛神社）の検地は伊奈氏によって実施され、文禄3年（1594）10月の上小田中村の泉沢寺の検地は大久保長安の系統の者です。さらに翌4年（1595）12月に山王社（日枝神社）、泉沢寺、王禅寺（麻生区）に与えられた代官頭の奉書は伊奈忠次・大久保長安・彦坂元正・長谷川長綱の連署です。また、下小田中村（中原区）においては、天正19年に伊奈忠次、文禄3年には大久保長安の検地が行われたとあります。このように川崎市域には代官頭の名が記してある地方文書や『新編武蔵風土記稿』などの地誌の類をしばしばみることができます。

小杉陣屋の小泉次大夫吉次も、勿論、代官頭配下の地方巧者です。吉次は駿河国富士郡小泉（静岡県富士宮市）の出身で、水利土木の技術にすぐれていた植松泰清の長男ですが、戦場で足を負傷し不自由になったため、家督を弟に譲り、土木技術を普及しながら家康に仕えることになったのです。幕府が編さんした『略譜』によりますと、家康が小杉御殿へ赴いた折り、よく植松姓を出生地の小泉の地名で呼んだので、小泉姓を名乗るようになったとあります。記録によりますと、吉次は慶長2年（1597）2月から多摩川兩岸の人工用水の開削に関わり、同4年（1599）から本格的に工事が推進されたとあります。こうして同6年（1601）には、徳川氏の代官に任命されましたが、この頃、小杉代官陣屋が整備されたものと思われます。

編集・発行 川崎市立中原図書館

〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)

高津図書館(822-2413)

麻生図書館(951-1305)

大師分館(266-3550)

橘 分館(788-1531)

幸 図書館(541-3915)

宮前図書館(888-3918)

田島分館(333-9120)

柿生分館(986-6470)

中原図書館(722-4932)

多摩図書館(935-3400)

日吉分館(587-1491)

管閣覧所(946-3271)